

猫を巡る地域の悩み

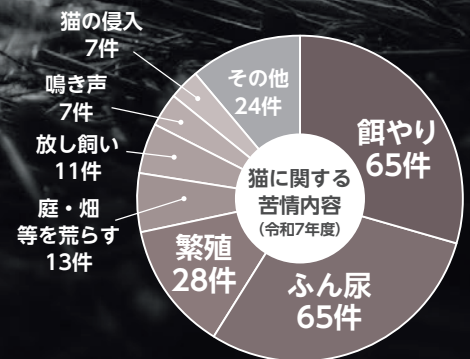
「庭にふんをされる」

「夜中の鳴き声が気になる」

「気付いたら子猫が生まれていた」

飼い主のいない猫を巡って、地域ではさまざまな困り事が起きています。被害に悩むだけでなく、不妊去勢手術や保護活動に取り組む人たちも、費用の負担や捕獲の難しさ、人手不足から、思うように活動を進められないケースも少なくありません。

生活環境への被害に悩む人、活動が続ける難しさを抱える人、そして過酷な環境で生きる猫たち。それぞれの「困ったなあ」が積み重なっているのが現状です。なぜ、このような問題が起きるのでしょうか。



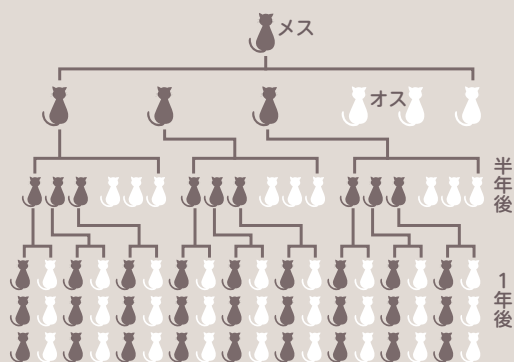
共生のために必要なこと

令和7年度、市には猫に関する相談が220件寄せられ、「餌やり」「ふん尿」「繁殖」に関するものが多くを占めました。これらは独立した問題ではなく、無責任な餌やりや不妊去勢手術が行われないことで猫が増え、ふん尿や鳴き声、庭や畑への被害へとつながっています。

実際に、猫に餌を与え続けている方の近隣住民から「猫が車に傷をつけ、高額な修理代がかかった」という相談を受けたこともあります。餌を与えている方には「猫がかわいい」という思いが先行し、周囲への影響を意識していないケースも多くあります。

人と猫が共に暮らしていくためには、「愛護」の気持ちとともに、周囲に迷惑をかけないための「管理」が欠かせません。猫が好きな方も猫に困っている方も、お互いの立場を尊重し合える社会が、共生への第一歩だと考えています。





1匹の猫から始まる命の連鎖

猫は繁殖力が強く、生後約6カ月で繁殖が可能になります。1回の出産で4～8匹の子猫を生み、年に2～3回出産することもある。生まれた子猫が成長してさらに子猫を生むことで、猫の数はあっという間に増えていきます。飼い主のいない猫に関する問題の背景には、この強い繁殖力があります。

人と猫が共に暮らせる地域を目指すためには、この連鎖をどこかで止める必要があります。

一人の力では、追いつかない

その連鎖を断ち切る鍵は、私たち一人ひとりの意識の変化です。動物愛護団体アニマルセーフティーリンク・イシスの代表・大原さんと井本さんに話を聞きました。



右 大原 晃子さん
左 井本 良美さん

保護するだけでは解決しない

大原さんたちが保護活動を開始したときに痛感したのは、保護した猫の数だけもらい手を探さなければならぬという現実だったといいます。助きたい気持ちだけで動くほど、猫の数が増え、資金も人手も追い付かなくなっていたのです。

「一人の力では、どうにもならないと思いました」

意識を変えることから

そこで軸に据えたのが、市民一人ひとりの意識改革です。

無責任な餌やりをやめる、猫を放し飼いにしない。特別なことではなく、小さな行動の積み重ねが、不幸な命の連鎖を止める

力になると大原さんは考えています。

「保護や譲渡などの活動はできない、という人でも、伝えることならできると思っています」

猫を飼いたいという人がいれば、ペットショップに行く前に愛護センターという選択肢があることを伝える。猫のトラブルで困っている人には、不妊去勢という解決策があることを知らせる。それだけでも、立派な愛護活動になると大原さんは言います。

「助けたい、どうにかしたいと悩む気持ちそのものが、もう愛護活動のスタートだと思っんです」

行政とともに

意識改革を促すために欠かせないのが、行政との連携。

「愛護団体だけでも、行政だけでも届かないところがあります。両方が手

を組んで初めて、市民に影響と思うんです」

行政と連携することで、活動が猫好きだけのものではなく、地域全体の課題として伝わりやすくなります。行政の手が届きにくいところを団体が補い、団体だけでは限界のあるところを行政の力で後押しする。

そのような役割分担のもと、行政と愛護団体、そして市民が力を合わせることで、飼い主のいない猫を増やさないための取り組みが少しずつ広がっています。



▲保護された猫を里親へつなぐ。



地域みんなで取り組むTNR

飼い主のいない猫を増やさないための取り組みとして広く行われているのが「TNR」です。

猫を捕獲し、不妊去勢手術を行った後、元の場所へ戻す活動で、これ以上猫を増やさず、地域の環境改善につなげることを目的としています。人と猫が共に暮らせる地域を目指すために、全国各地で取り組まれている活動です。



Trap

猫を捕獲する



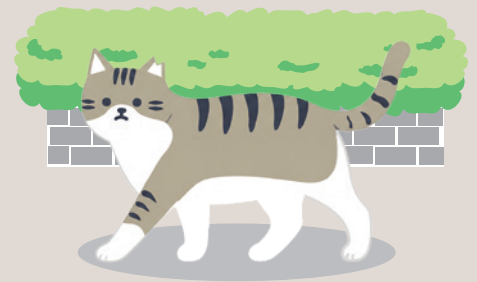
N neuter

不妊去勢手術を行う



R eturn

元の場所へ戻す

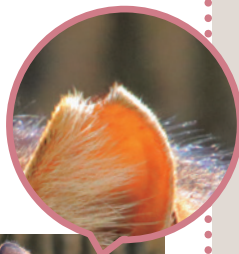


さくら耳ってなに？

猫の耳先がV字にカットされているのを見たことはありませんか。

これは、不妊去勢手術を受けた猫の目印です。雄は右耳、雌は左耳をカットするのが一般的で、一目で手術済みかどうか分かります。カットは手術の際、麻酔中に行うため猫への負担はほとんどありません。

耳先がV字にカットされた「さくら耳」は、再び捕獲して手術を行うことを防ぐ大切な目印になっています。



人も猫も守るために
 獣医師として、飼い主のいない猫と向き合う上で公衆衛生の観点を大切にしています。動物だけでなく、人の健康や生活環境を守ることも獣医師の大切な役割だと考えています。

マダニが媒介するSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は深刻な課題です。飼い主のいない猫にはマダニが寄生している場合もあり、人がマダニに接触する機会が増えることで感染症のリスクも高まります。そのため、TNRは猫を増やさないだけでなく、人を守ることに繋がります。

人と猫が共に暮らせる下関市を目指し、その一助となればと思っています。



下関市開業獣医師会長
 なつ動物病院
 原田 秀明 院長



この猫をさがせ！
 正解は29ページ
 編集後記で！



人と猫の共生を目指す 新たな支援が始まりました。

下関市では令和8年度から12年度まで、「飼い主のいない猫と地域との共生事業」を実施します。

これまでも不妊去勢手術への助成制度はありましたが、手術費用の自己負担に加え、動物病院とのやりとりも申込者の負担となっていました。

新たな事業では、市が無料で手術を行い、手術日もあらかじめ設定されています。

申込者は猫を捕獲し、指定日に動物愛護管理センターへ搬入・搬出することで利用できます。

また、手術数も従来の年間200匹から400匹へと拡大しました。飼い主のいない猫の寿命に合わせて5年間集中的に取り組むことで、飼い主のいない猫を着実に減らし、人と猫が共生できる地域づくりを目指します。



申請方法と申請後の流れ



詳しくは
こちらから

1

申請



手術実施月の前月1～10日に、市HPで電子申請するか、申請書等を動物愛護管理センターへ郵送か持参します。
※先着順。

2

決定通知



手術実施の決定通知書が届きます。

3

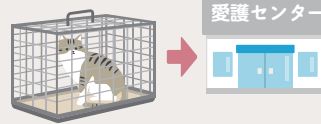
捕獲器の貸し出し



本人確認書類を持参し、動物愛護管理センターで捕獲器を借ります。

4

猫の搬入



手術日の前々日～前日正午までに、捕獲した猫を捕獲器ごと動物愛護管理センターに持ち込みます。

7

捕獲器の返却



捕獲器を洗浄し、すみやかに返却します。

6

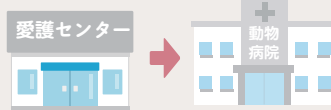
猫の返還・解放



手術翌日の午前9時～正午に動物愛護管理センターで猫を受け取り、元の場所に戻します。

5

手術



動物愛護管理センターが各動物病院へ搬送し、手術を行います。耳先のV字カットが必須です。



地域猫活動って なにをしているの？

地域猫活動は、猫を増やさないことを目的に、地域理解のもとで「決まったルール」で猫を管理し、地域住民と飼い主のいない猫との共生を目指す活動です。

DAILY ACTIVITIES

毎日の活動



餌やり

朝と夕方に餌を与えます。決まった時間に与え、食べ終わるまで見守り、食器はすぐに片付けます。



トイレ掃除・周囲の清掃

猫用トイレを設置し、小まめに掃除します。周辺のふんも回収し、清潔な環境を保っています。



健康チェック

食欲や歩き方、けがの有無などを確認します。体調に異変があれば、必要に応じて病院へ連れて行くこともあります。

地域猫活動を始めたい方へ

できることから一歩ずつ

①地域で話し合う

自治会や近隣住民と話し合い、活動への理解を得るとともに、活動を担うメンバーを集めます。餌やりやトイレのルールも決めます。

②動物愛護管理センターに届け出をする

地域猫活動団体として市に届け出ます。活動の進め方について相談することもできます。

③地域猫を管理する

餌やりや清掃、不妊去勢手術、健康確認などを行い、猫が増えないよう管理します。

④活動を伝える

自治会や動物愛護管理センターへ活動状況を報告し、地域の理解を深めながら活動を続けます。



▲地域猫活動の
すすめ

Q A 地域猫活動 で知る! のこと



Q なぜ餌をあげる時間を決めているの？

A 管理外の猫が集まるのを防ぐためです。

餌を置きっぱなしにすると、他の地域から猫が集まり、地域全体の猫が増える原因になります。また、カラスによる持ち去りや周囲の汚れを防ぐため、陶器などの重い皿を使用し、食べ終わったらすぐに餌皿を片付けています。

Q 不妊去勢手術のための捕獲は大変？

A 警戒心の強い猫を捕獲するのは大変です。

餌を工夫したり、捕獲器に慣れてもらったりと、猫との知恵比べ。猫が好む匂いの強い餌を使い、捕獲の成功率を高めています。



Q 活動は猫のお世話だけ？

A 地域とのつながりも大切な活動です。

地域への説明や報告、動物愛護管理センターへの活動報告などもしています。

地域のつながりを構築する上で一役買っています。



堂々と、
地域とともに
こっそり餌を
あげる方もいま
すが、それでは
猫の数や状態を把握できず、適切な管理
につながりません。地域の理解を得なが
ら、堂々と活動することが大切だと思
います。

不妊去勢手術や周囲の清掃など、必要
な管理が伴わなければ、結局その猫を不
幸にしてしまいます。感情だけでなく、
責任を持った行動をお願いしたいです。



地域猫活動団体
繁田 裕美さん

みんなで考える、地域と猫。

「かわいそうだから」と餌を与えるだけでは、猫は増え続けます。

一代限りの命を地域で見守ることで、不幸な命を増やさないことにつながります。

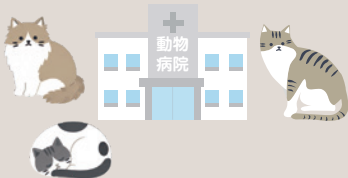
猫の数が減ることで、ふん尿や鳴き声などの問題も少しずつ減り、衛生的で安心して暮らせる環境が生まれます。猫が好きな人にとっても、猫に困っている人にとっても暮らしやすい地域をつくるためには、一人ひとりの理解と協力が欠かせません。

人と猫が共に暮らせるまちは、地域全体で取り組むことで実現します。



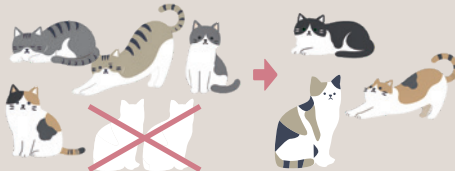
1 不妊去勢手術の実施

飼い主のいない猫に不妊去勢手術を行います。



2 猫が生まれなくなる

不妊去勢手術で、繁殖を防ぎ、数年をかけて猫が減っていきます。



3 環境が良くなる

ふん尿や鳴き声などの問題が減り、地域の環境が良くなります。



ふん尿の問題が減る
鳴き声の問題が減る
ごみあさが減る
きれいなまちに

人と猫が共に暮らせる地域へ



猫が好きな人にとっても

不幸な命が生まれず、猫が住民から見守られ、愛護される地域に。



猫に困っている人にとっても

環境被害が減り、安心して快適に暮らせる地域に。



下関動物ふれあいフェスティバル2026

動物との触れ合いを通して、命の大切さや正しい飼い方を学べるイベントです。
家族みんなで楽しめるコーナーがいっぱい！ぜひご来場ください。

日時

9月23日(水・祝) 動物愛護管理センター
午前10時～午後2時

場所

大字井田

内容

- 児童絵画表彰式(午前10時)
- 動物慰霊祭(午前10時25分)
- 動物のお医者さん体験
- 動物愛護団体による譲渡会
※即日譲渡はできません。
- ワンニャンしあわせカルタ会
- みんなで作ろう！かわいい動物の置物
- 犬のしつけ方実演コーナー
- 各種相談コーナーなど

※内容は変更になる場合があります。

動物のお医者さん体験



譲渡会



児童絵画展・表彰式



動物慰霊祭



関動物愛護管理センター (☎263-1125)
開館時間 午前9時～午後5時(年末年始は休館)

道路上の動物の死骸を
見つけたときは

#9910へ